

新春を迎えて

各会派の抱負

3名以上で構成される会派について
新年の抱負を掲載しています。
各会派の構成については、
最終面をご覧ください。

責任ある区政の実現を！

練馬区議会自由民主党（15人）

新年明けましておめでとうございます。
国政においては「政権公約」は守られないまま、国家主権を見失い景気は低迷しております。
私たち練馬区議会自由民主党は、70万区民の皆様には確かな情報をお伝えした上で、区民生活の安全・安心の確保と福祉の向上を目指します。そのために特別養護老人ホームと保育所の大幅な増設を始め、療養とりハビリ回復機能を兼ね備えた病院の誘致に力を尽くします。また、区内産業の育成と都市農業の振興を図り、外環道と大江戸線の延伸など都市基盤整備の充実、さらには、将来この国を担う子供たちのために学校教育の新たな取り組みなど、全ての施策において、しっかりと財源を確保しながら、責任ある区政の実現に向けて邁進することを年頭にお誓い申し上げます。
結びにあたり、区民の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしましてご挨拶いたします。

生活者の視点で 区政のムダを削減！

練馬区議会公明党（12人）

新年あけましておめでとうございます。平素、公明党に對するご支援、ご協力を心より感謝申し上げます。
我が国の経済状況は、持ち直しつつあるものの、景気後退への不安感を拭い得ず、区民を取り巻く環境も依然厳しい状況であります。こうした状況の中、身近な自治体である練馬区の果たす役割はますます重要であり、私たち公明党は、区民生活を守り少子高齢化に対応した様々な施策を提案してまいります。
高齢者を対象とした「お困りごと支援事業」の創設や、高齢者施設の増設と高齢者いきいき健康券の実施、また子育て支援として保育園や学童クラブの増設をはじめ、子宮頸がん・乳がん検診無料クーポン券の実施等々、区民に直結した生活支援を積極的に推進してまいります。今後は、区の医療体制の充実を図るため、新病院の建設に取り組んでまいります。本年も相変わらぬご支援を、心よりお願い申し上げます。

住民が主人公の 区政をめざして

日本共産党練馬区議団（6人）

新年おめでとうございます。
政権が変わって1年あまり、国民の期待に反して前政権とより二つの政治の midden に失望と大きな怒りの声が上がっています。地方政治をめぐるのは、現政権に引き継がれている政治悪が住民の福祉と暮らしを破壊し、地域経済と地方自治の深刻な危機を招いています。
こうした情勢のもと、当区議団は区政アンケートを行い2500通を超える回答をいただきました。切実な区民の声を要望書にまとめ、区長に提出し、議会でもとりあげました。特に切実な特養ホームや保育園の待機者解消、医療の拡充を求め、区民要求を前進させることができました。
一方、基本構想、区政推進基本条例が強行可決され、今後自治体のあり方が大きく問われることとなります。
今年もみなさんと力を合わせ、貧困と格差が増大するもとでも区民の願いの実現と、自治体本来の役割発揮へ奮闘する決意です。

区民に開かれた 議会の実現を！

民主党練馬クラブ（5人）

昨年8月、私どもが主張し続けてきた第三者評価の仕組みを取り入れた練馬版事業仕分け、事務事業見直し、区民の視点からの事業再評価」が実現しました。一昨年来、区の財政は厳しい状況にあり、区民のために真に必要な事業を選択し、優先度の高い事業に集中していく「選択と集中」の観点が一層重要になっていきます。来年度予算審議では、事務事業見直しがどのように予算編成に生かされたかを検証しつつ、区民生活最優先の行革に取り組んでまいります。
行革とともに重要なのは議会改革です。議会が単なる行政の追認機関ではなく、議決機能やチェック機能など本来の役割を果たすためには、形式にとらわれずに必要な議論を必要なだけ行うための環境づくりが欠かせません。そのため「区民に開かれた議会」が必要であり、議会基本条例をはじめ、会議の動画配信や傍聴者への資料配布、公聴会の開催、本会議の一問一答など具体的な取り組みを粘り強く提案してまいります。

区民の「声」が届く区政を

練馬区議会民主区民クラブ（4人）

明けましておめでとうございます。
日頃からのご指導、ご支援に心から感謝し、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
わが国の経済状況や練馬区の地域経済は、この十数年景気の低迷が続いています。こうした状況の中、練馬区では、景気回復のための経済政策や、弱立場の人のための福祉政策、子育て支援や救急医療の体制など多くの課題が残っています。練馬区も今以上に効果的で効率的な自治体経営を行い、公共サービスの充実や予算編成の透明化などを一層推進していく必要があります。
今年も、私どもの会派は、区民の「声」を活かした政策実現へと活動して参りますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。
本年が皆様にとって良い年となりますよう心からご祈念申し上げます、新年の抱負と致します。

曲がり角に立つ区政、 転換の先頭に

社民党・市民の声・ふくしフォーラム（3人）

新年にあたり、あらためて「区政はどこへ行くのか？」と自問します。このところ、区議会では練馬駅北口、関越道高架下、光が丘の学校跡施設と、区有地や区有施設の「活用」計画が深刻な議論を呼んでいます。大切な区民の財産を企業誘致に差し出すこと、陽の当たらない高架下に区民施設を押し込むことがなぜ「活用」なのか。
自治体の基本は「住民の福祉の向上」を図ること、そして区民の自治を育てることです。子育て世代が保育の場を探してさ迷い、高齢の母や父が障害を持つ家族の明日を案じ、若者が働きたくても働けず、地域に不信と孤立が広がる時、それは活力ある社会でも明るい社会でもありません。私たち3人は、議員になった経過も議員としての経験も異なりませんが、共同会派をつくり精いっぱい議員活動に取り組んできました。区政が大きな曲がり角に立つ中、自治と支え合い、公正と平等の原則に立ち返りながら、今年も区民の皆様とともに奮闘します。

困っている人を 放っておかない！

生活者ネットワーク（3人）

昨年は沖縄の基地問題が大きな争点となり、改めて戦争と平和の問題を考える年でした。東アジアの緊張が高まる中、ヒロシマで初めてノーベル平和賞受賞者世界サミットが開催され、核兵器廃絶の実現に日本のリーダーシップが期待されます。平和市長会議に参加している練馬区は、区民と共に足元から平和を築く行動をしていく時です。
社会の寛容さがどんどん失われています。地域に暮らす様々な立場の人が、意見の違いを乗り越え議論を積み重ねて、問題解決につなげることが必要です。そのために区民がさらに区政に直接参画するしくみの整備が求められます。議員特権として廃止を訴えてきた地方議員年金が廃止へと動き始めました。住民にとって議員や議会の役割が問われています。議会への住民参加を積極的にすすめて、開かれた議会へと変えていきます。生活者ネットワークは、困っている人を放っておかない社会をめざします。そして本来の区民主権の実現に向け区民と共に活動します。